

Jミルクが2023年7月28日に公表した「需給見通し(※2023年6月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「製品価格改定1週目の販売個数は前週より減少～今後も動向には注視が必要」

・6月の生乳需給実績は、飲用等向は前年比▲3.3%となったものの、生乳生産量は北海道、都府県ともに引き続き前年を下回り、全国では▲3.7%と減少幅が大きく、乳製品向は前年を下回る▲4.3%となった。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では猛暑の影響が強く7月下旬で前年比▲6.0%と今年度最大の減少率を更新した。今後も前年を下回る生産量が続き見込みであり、引き続き乳製品向けについても前年を大きく下回る可能性が高い。
・乳製品向仕向量の減少から脱脂粉乳とバター生産量は前年を下回った。バターは堅調な業務用需要が全体を牽引し前年を上回る水準で推移し、国家貿易による輸入売渡を含めて単月の需給は均衡していることから、在庫量は概ね前月並みとなった。一方、脱脂粉乳は全国協調の在庫削減対策を除く実需は低調に推移しているものの、対策分が出回り量を一定程度持ち上げたことで、脱脂粉乳についても単月の需給は均衡水準となり、在庫量は概ね前月並みとなった。脱脂粉乳は、単年度ギャップが製品ベースで40千ト程度と試算されており、2023年度も在庫解消対策継続による消化が必要な状況となっている。

・7/31週(7/24週)の牛乳類の販売動向は、製品価格改定による消費の減退が一定程度影響していると考えられ前週(7/24週)よりも販売個数は減少した。一方、乳飲料はやや増加しており、昨年11月同様に価格優位性のある製品にシフトしている可能性がある。今後価格改定を徐々に進める小売・流通もあり、直近週だけでは影響を見極めることが困難なため、引き続き販売単価や販売個数の動向を注視する必要がある。

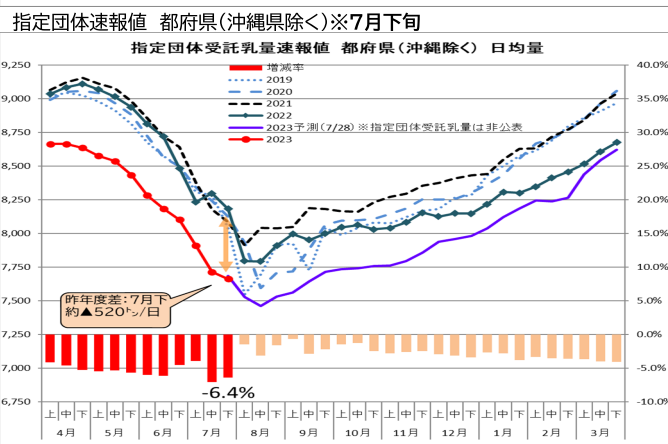
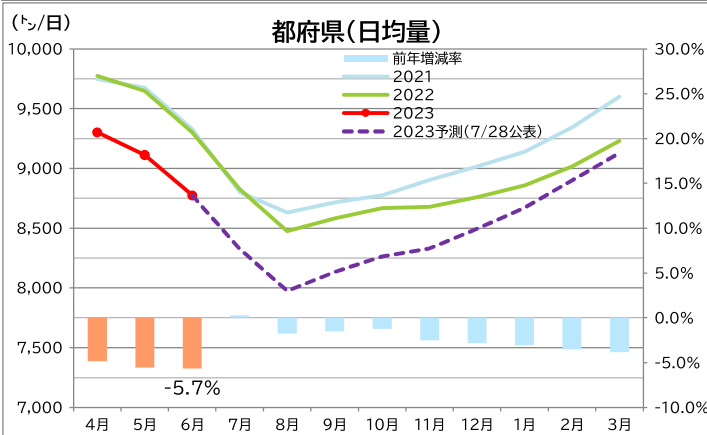
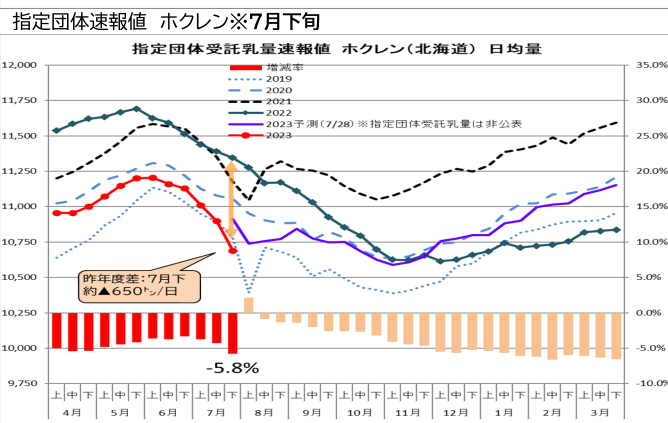
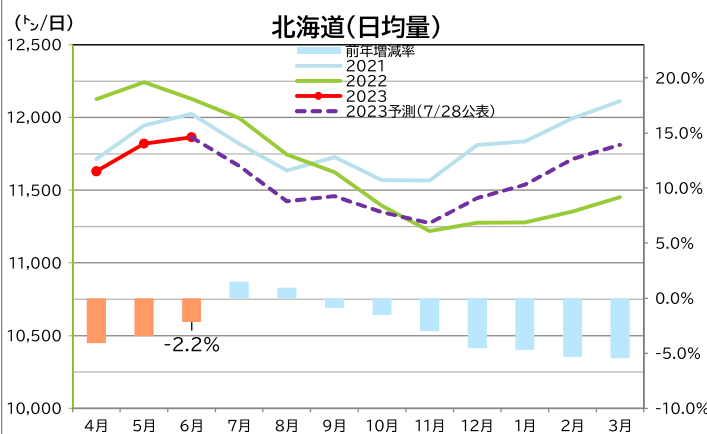
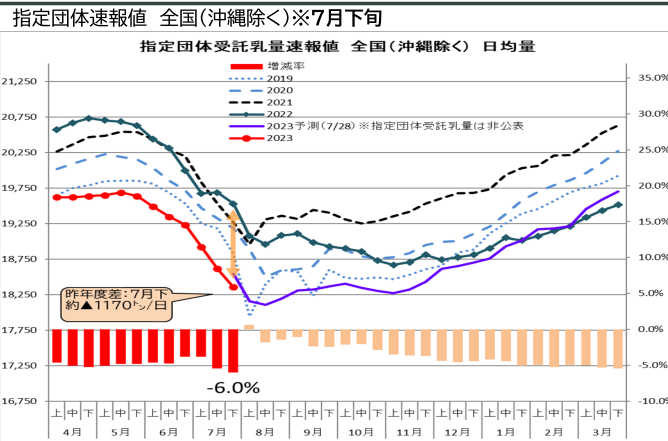
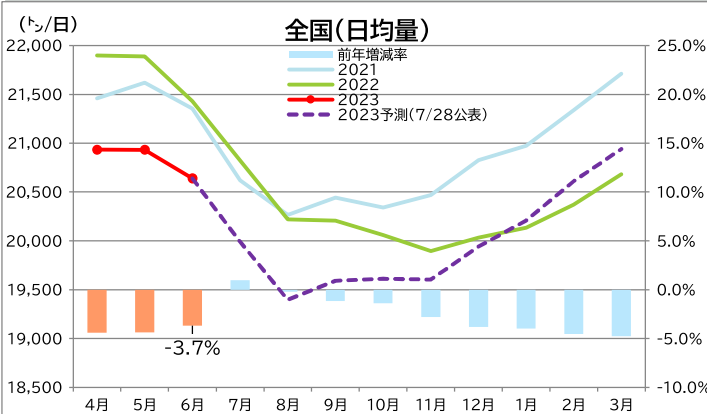
・訪日旅行者数については2019年同月と比較して72%まで回復しており、業務用需要の回復に寄与していると考えられる。一方で中国客は同24%と回復には程遠いが、中国政府が近く団体旅行を解禁する方針を日本側に伝えてきたとの報道もあり、団体旅行が解禁されれば更に経済活動が活発となるため、業務用需要の後押しに期待がかかる。

・食品等を中心に値上げが続き、生活防衛意識は高まる一方で、この先1ヶ月は全国的に暑い日が多くなることが予報されているため、牛乳類を含めて飲料全般の消費の追い風となることが期待される。価格改定による需要動向を注視しつつ、影響を最低限に抑えるため、引き続き業界内外の垣根を超えた消費喚起による購買行動の機運を高めるとともに、牛乳乳製品の継続的かつ積極的な理解醸成活動が求められる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳生産量は、全国619.2千ト(前年同月比96.3%)、北海道355.9千ト(同97.8%)、都府県263.2千ト(同94.3%)。

(2)直近の指定団体速報値は7月下旬で全国が同94.0%、都府県(沖縄除く)が同93.6%、北海道は94.2%となった。

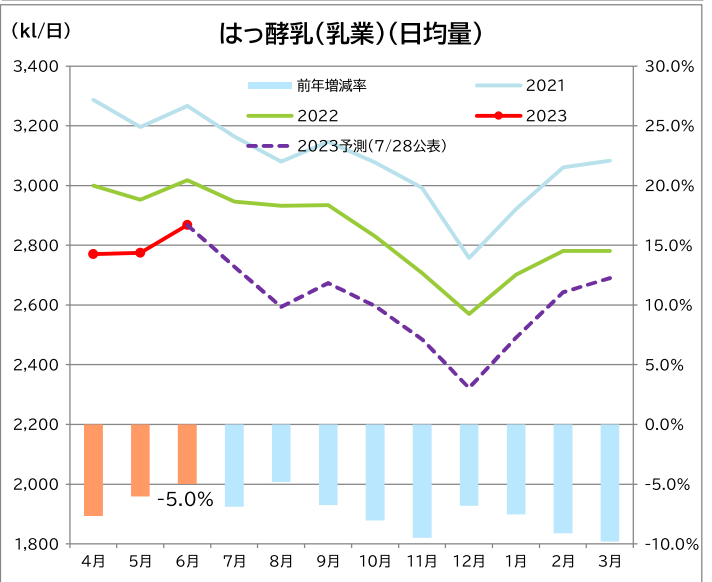
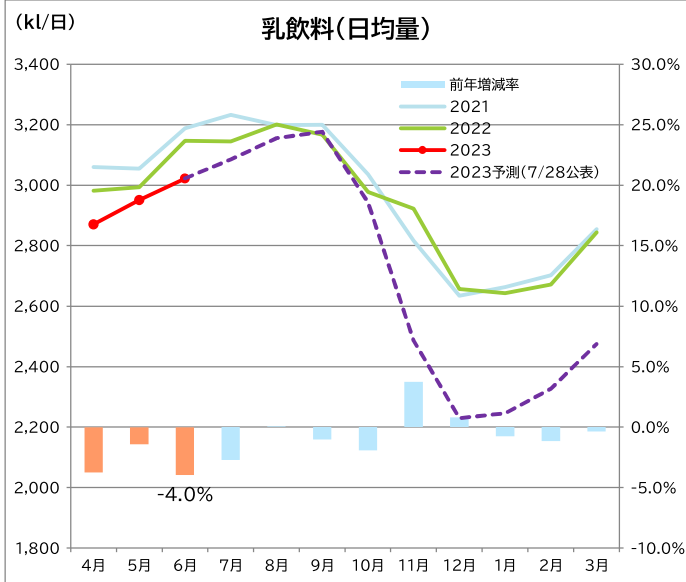
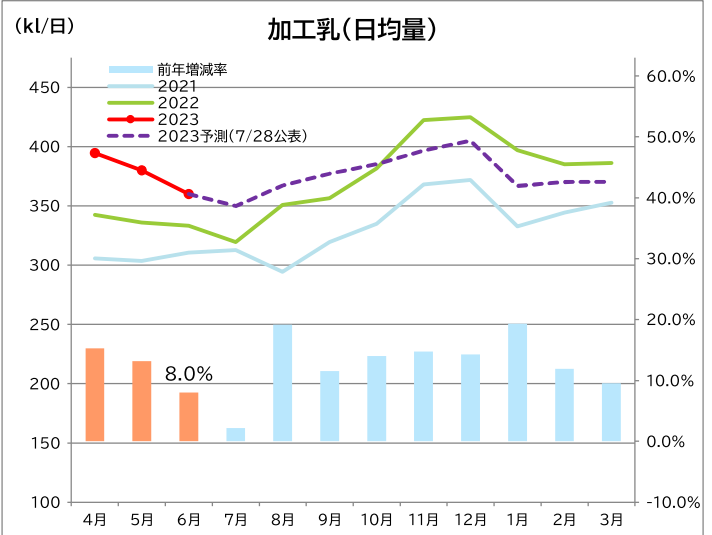
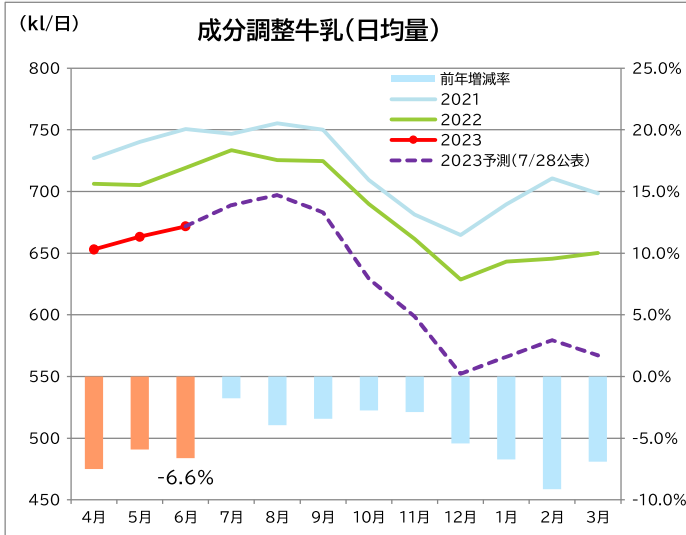
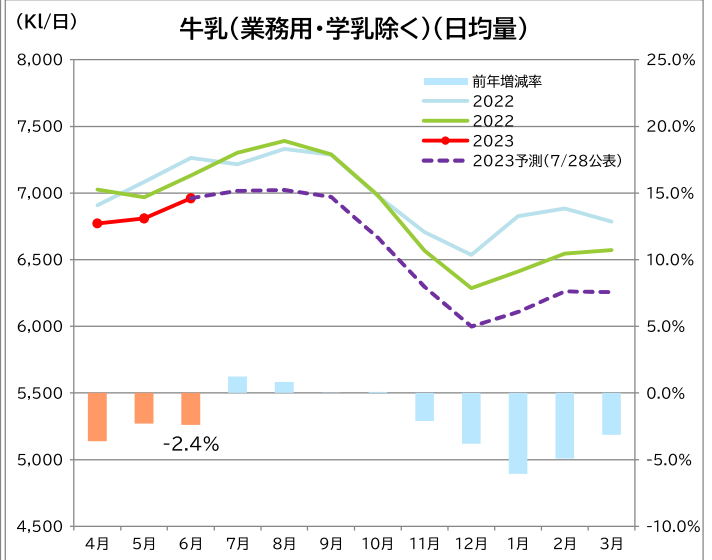
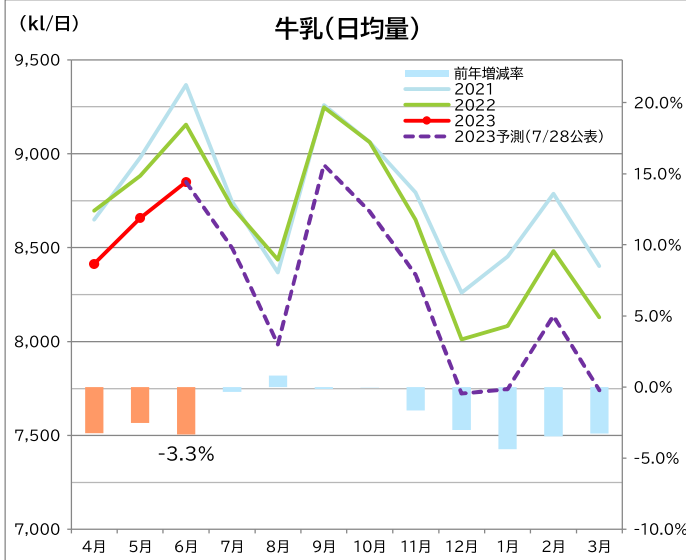


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の牛乳等生産量は、牛乳265.5千kl(前年同月比96.7%)、成分調整牛乳20.2千kl(同93.4%)、加工乳10.8千kl(同108.0%)、乳飲料90.7千kl(同96.0%)となり、牛乳類合計では387.1千kl(同96.6%)となった。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同97.6%、「業務用」は同88.4%、「学乳」は96.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は86.0千kl(同95.0%)と前年を大きく下回って推移している。

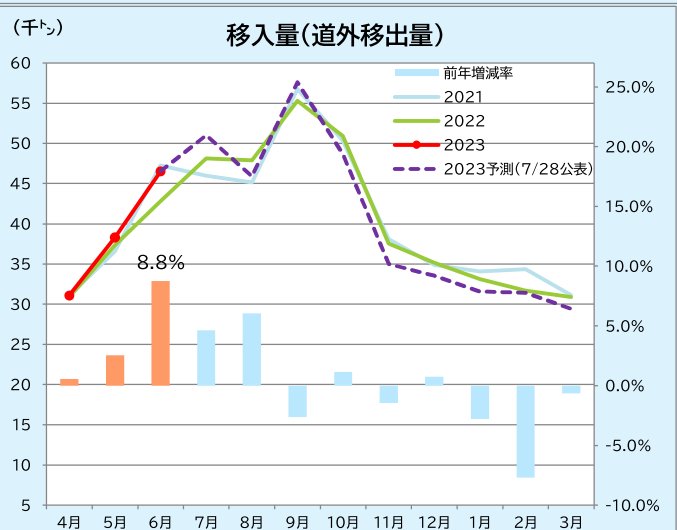
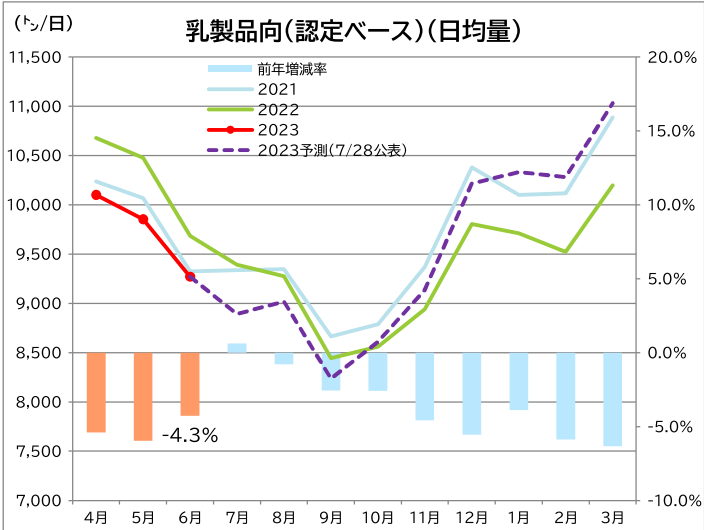
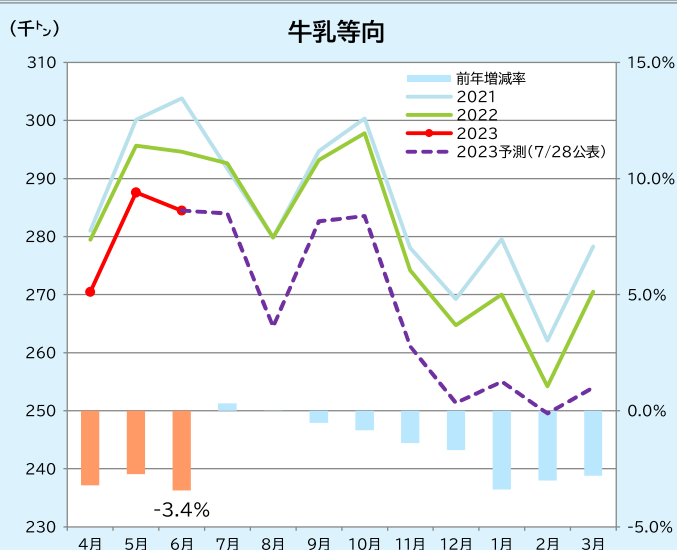
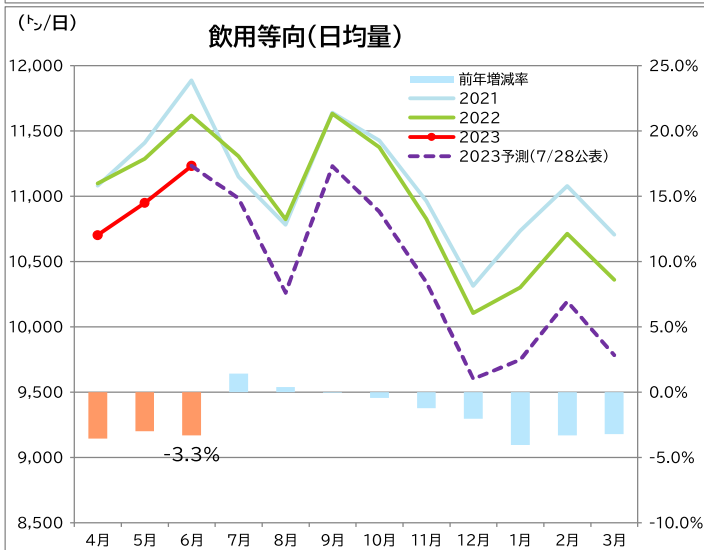
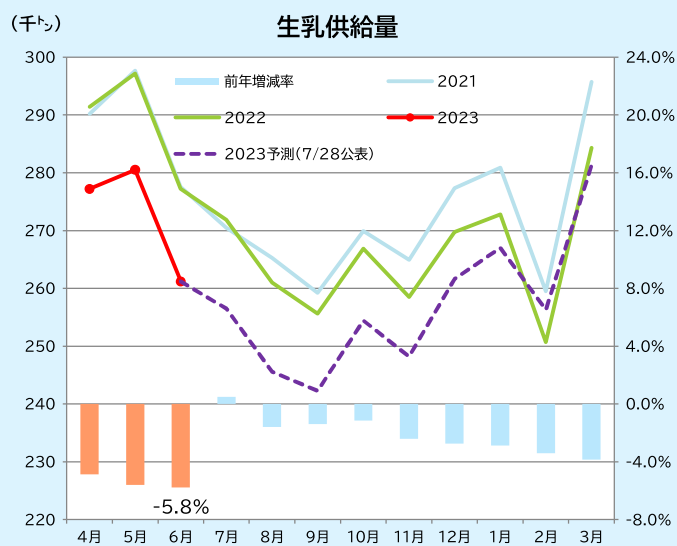
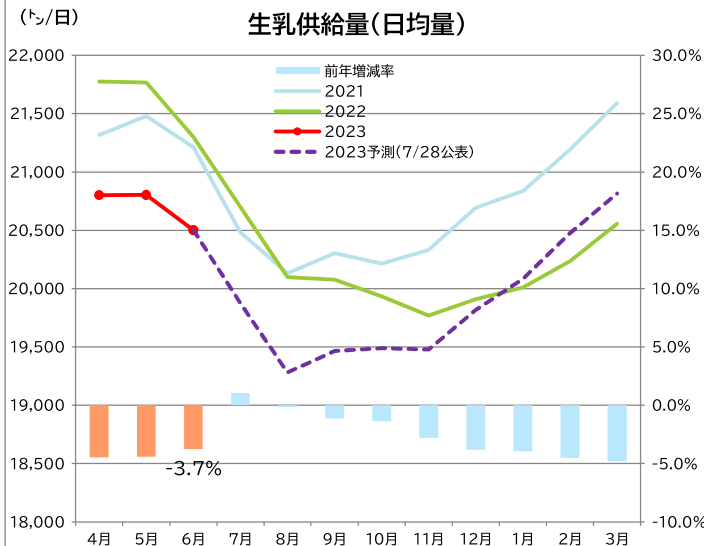


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)6月の生乳供給量は615.1千ト(前年同月比96.3%)、飲用等向337.0千ト(同96.7%)、乳製品向(認定ベース)278.1千ト(同95.7%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少量の方が大きく、乳製品向は前年を大きく下回った。

【都府県の生乳需給】

(1)6月は、生乳供給量261.2千ト(前年同月比94.2%)、牛乳等向284.5千ト(同96.6%)。
 (2)北海道からの移入量について、生乳供給量の減少が大きく46.5千ト(同108.8%)と前年を上回った。

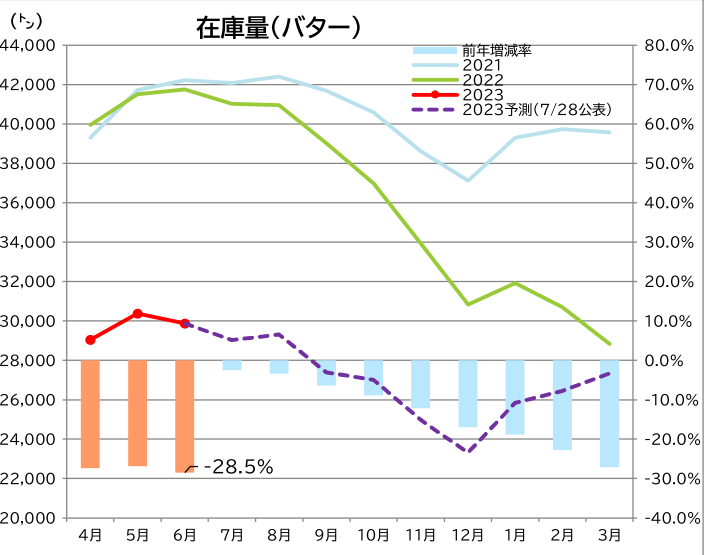
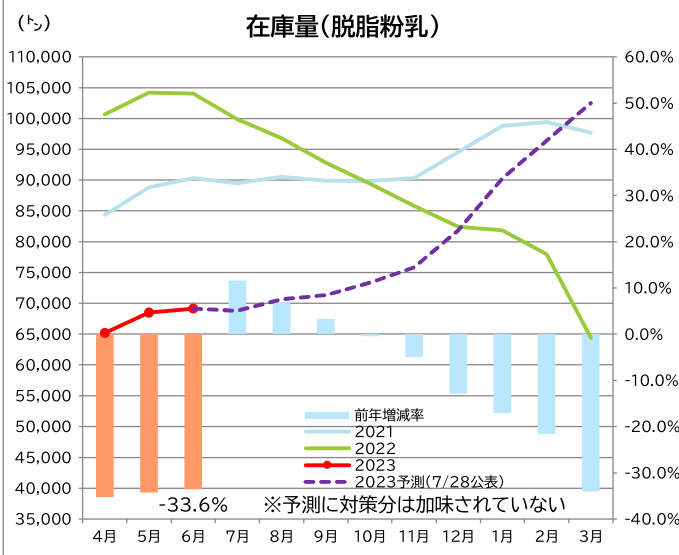
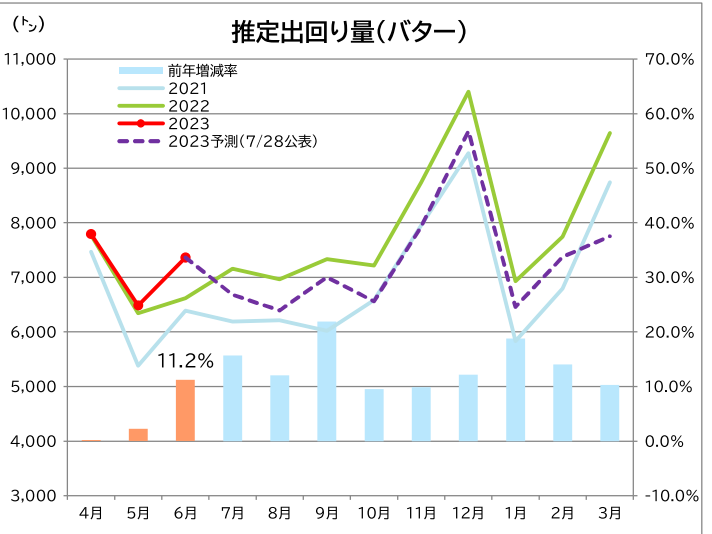
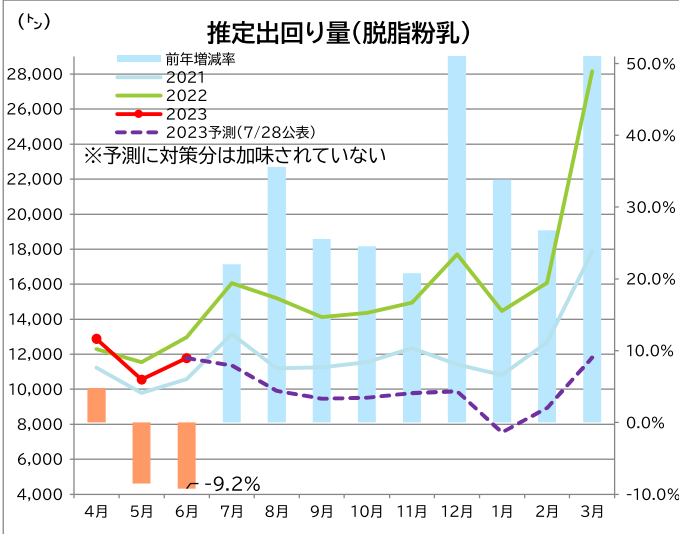
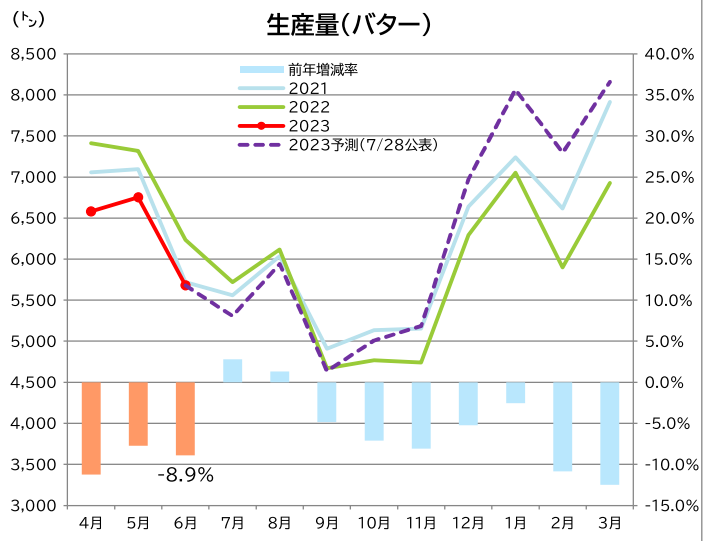
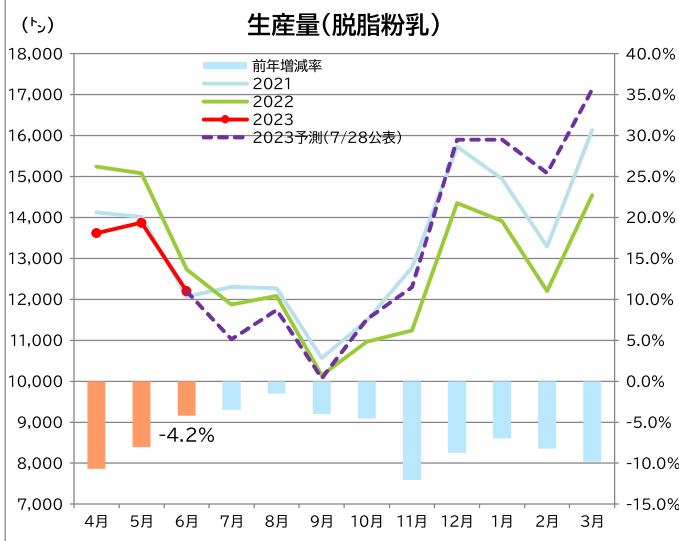


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、6月の生産量は12.2千ト(前年同月比95.8%)、推定出回り量は11.8千ト(同90.8%)となった。出回り量よりも生産量が上回ったことで、在庫は前月よりも0.6千ト程度増加し、結果在庫量は69.1千ト(同66.4%)となった。在庫量は昨年5月をピーク(104.2千ト)から在庫対策等の効果により減少し、3月には64.4千トまで減少したが、その後3ヶ月連続で積み増している。7月28日にJミルクより公表した需給見通しでは、在庫対策を講じない場合、在庫量は再び10万トを超える高水準になると予測されている。これまで以上に理解醸成活動、牛乳乳製品の消費拡大を図り在庫量を積み増さないよう取り組むとともに、今年度も国の支援を得ながら全国の生産者・乳業者が協調して取り進める在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限かつ積極的に取り組む必要がある。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、6月の生産量は5.7千ト(同91.1%)、推定出回り量は7.4千ト(同111.2%)となった。国家貿易による輸入売渡分を考慮しても、出回り量が堅調であることから、在庫量は29.9千ト(同71.5%)と前月よりもやや減少した。在庫量は14ヶ月連続で前年を下回っており、引き続き消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)7月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比95.9%、成分調整牛乳:同86.7%、加工乳:同92.7%、乳飲料:同98.2%。

牛乳類では同95.5%

【参考】2021年7月比…牛乳:94.8%、成分調整牛乳:85.6%、加工乳:92.2%、乳飲料:96.3%(牛乳類トータル:94.3%)

・販売単価は、牛乳:207.3円、成分調整牛乳:192.7円、加工乳:210.8円、乳飲料:163.8円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(7/31週)の販売個数は、牛乳:前年同期比93.2%、成分調整牛乳:同83.2%、加工乳:同93.4%、乳飲料:同101.6%。

牛乳類トータルでは同93.7%

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

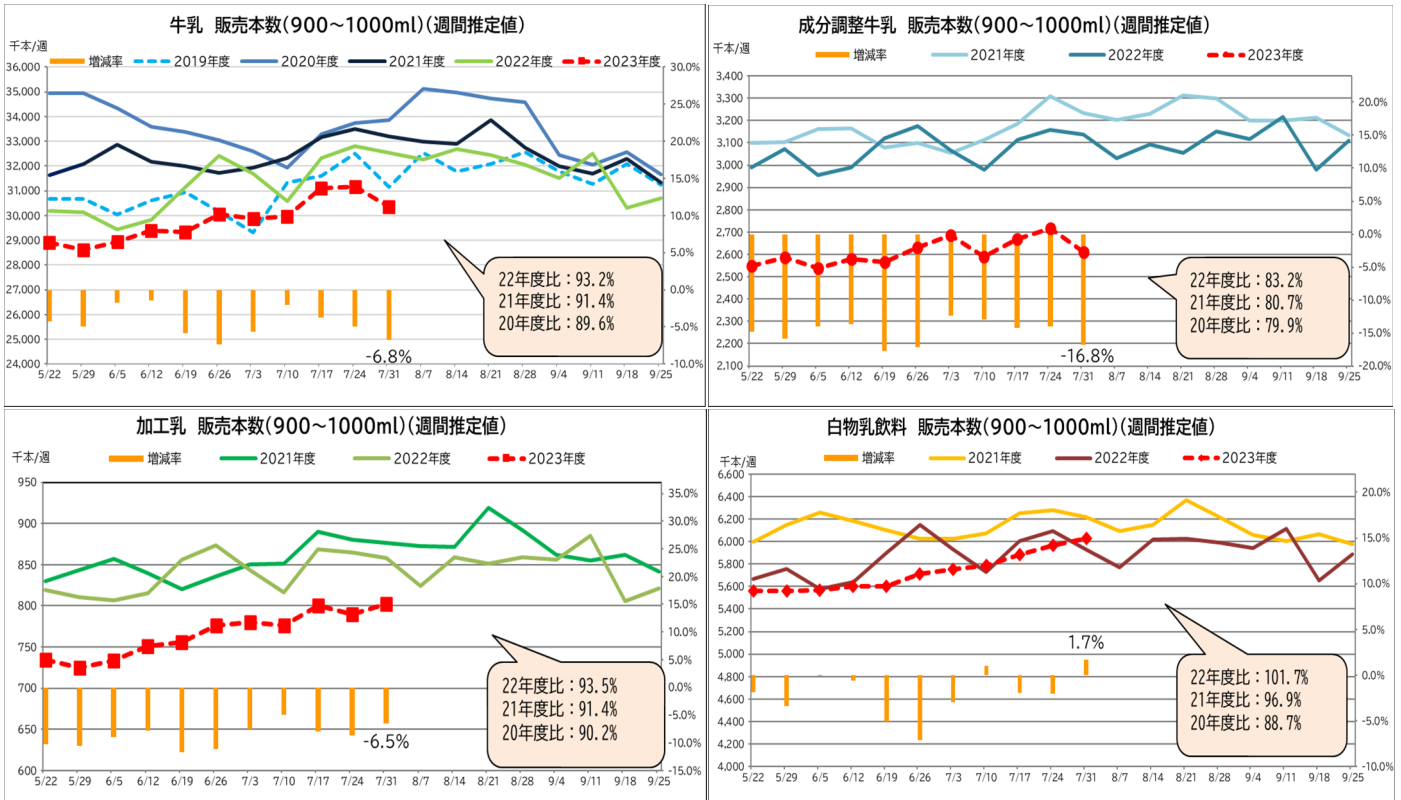
品目	区分	2023/2-	2023/3-	2023/4-	2023/5-	2023/6-	2023/7-	2023/7- 2022/10価格差	2023/7- 2023/3価格差
		販売個数	販売個数前年比	販売単価					
トータル	販売個数	141,046	157,260	157,169	164,698	162,636	177,890	16.9	1.7
	販売個数前年比	93.7	95.8	96.0	95.7	95.1	95.5		
	販売単価	197.8	198.3	199.6	199.9	199.9	200.0		
牛乳	販売個数	106,788	119,417	120,068	126,050	124,652	136,383	17.1	0.8
	販売個数前年比	92.4	95.6	96.5	96.4	96.0	95.9		
	販売単価	206.3	206.5	207.1	207.2	207.1	207.3		
成分調整牛乳	販売個数	10,022	10,992	10,701	11,123	10,949	11,921	19.0	3.4
	販売個数前年比	86.4	87.3	84.5	84.6	84.4	86.7		
	販売単価	188.0	189.3	192.2	192.7	192.8	192.7		
加工乳	販売個数	2,907	3,253	3,206	3,233	3,187	3,507	20.7	10.9
	販売個数前年比	96.2	97.6	95.6	90.7	89.9	92.7		
	販売単価	198.6	199.9	205.8	209.7	210.5	210.8		
乳飲料	販売個数	21,330	23,597	23,195	24,291	23,848	26,079	14.1	3.5
	販売個数前年比	100.2	101.7	99.3	98.8	96.8	98.2		
	販売単価	159.7	160.3	163.1	163.9	164.1	163.8		

単位:千個、円

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	6.12-	6.19-	6.26-	7.3-	7.10-	7.17-	7.24-	7.31-	23.7.31- 22.10.24 価格差	23.7.31- 23.3.20 価格差	23.7.31- 23.7.24 価格差
		販売個数	販売個数前年比	販売単価								
トータル	販売個数	38,338	38,260	39,162	39,102	39,128	40,459	40,648	39,783	25.7	10.8	8.5
	販売個数前年比	97.6	93.2	91.9	94.2	97.5	95.6	94.7	93.7			
	販売単価	199.8	200.0	199.8	199.9	199.9	200.1	200.5	209.0			
牛乳	販売個数	29,400	29,338	30,043	29,884	29,973	31,105	31,174	30,344	26.9	10.6	9.4
	販売個数前年比	98.5	94.2	92.7	94.3	98.0	96.2	95.1	93.2			
	販売単価	207.0	207.2	207.0	207.2	207.3	207.3	207.8	217.2			
成分調整牛乳	販売個数	2,581	2,566	2,631	2,686	2,591	2,667	2,716	2,609	28.7	13.9	9.4
	販売個数前年比	86.3	82.2	82.9	87.6	87.0	85.7	86.0	83.2			
	販売単価	192.6	193.2	192.3	192.8	192.4	193.2	193.2	202.6			
加工乳	販売個数	751	756	776	780	776	800	790	802	27.0	16.6	6.0
	販売個数前年比	92.1	88.3	88.8	92.5	95.1	92.1	91.3	93.4			
	販売単価	209.4	210.3	210.8	209.8	210.1	210.5	211.9	217.9			
乳飲料	販売個数	5,605	5,600	5,712	5,751	5,787	5,886	5,969	6,029	19.8	10.0	5.4
	販売個数前年比	99.4	94.9	92.9	97.0	101.0	98.0	98.0	101.6			
	販売単価	163.8	164.0	164.2	163.5	163.6	163.7	164.3	169.7			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(7/31週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

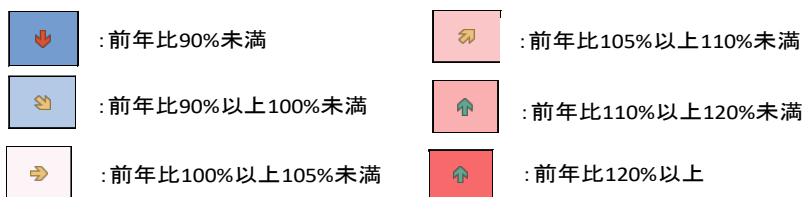
(2)販売個数について、全ての品目で前週(7/24週)よりも減少した。はっ酵乳全体としても前年を下回る推移となっている。

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	6.12-	6.19-	6.26-	7.3-	7.10-	7.17-	7.24-	7.31-
ドリンクタイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉
個食タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉
大容量タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉



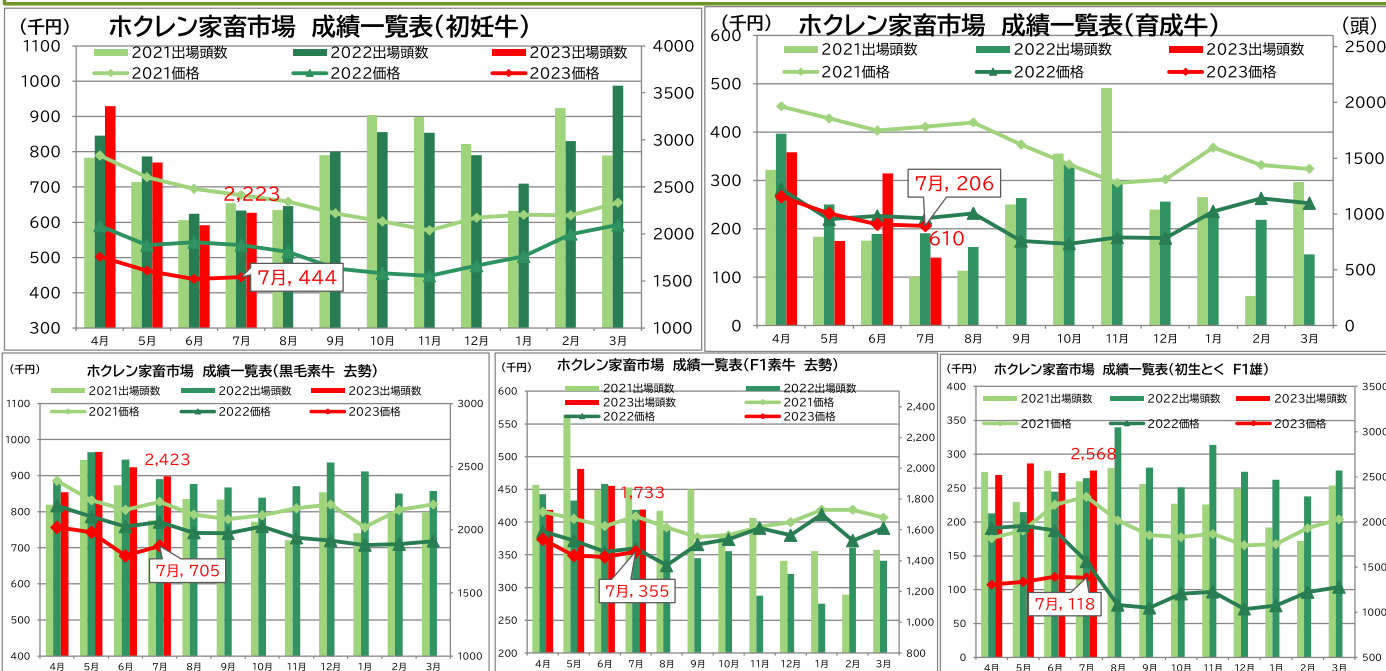
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)7月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は444千円(前年同期比83.0%)、育成牛価格は206千円(同92.8%)、和牛素牛(去勢)価格は705千円(同91.3%)、F1素牛(去勢)価格は355千円(同98.6%)、F1初生(雄)価格は118千円(同82.8%)。初妊牛は3ヶ月連続で40万円台となった。F1初生(雄)は5ヶ月連続で10万円を上回った。ホル初生(雄)価格は51千円(同81.9%)となった(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同98.8%、育成牛:同73.7%、和牛素牛(去勢):同100.9%、F1素牛(去勢):同100.2%、F1初生(雄):同103.3%。

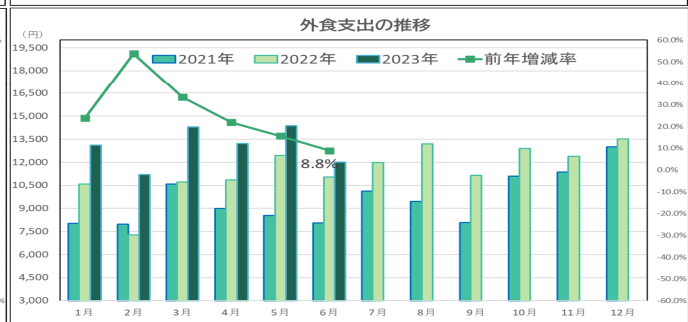
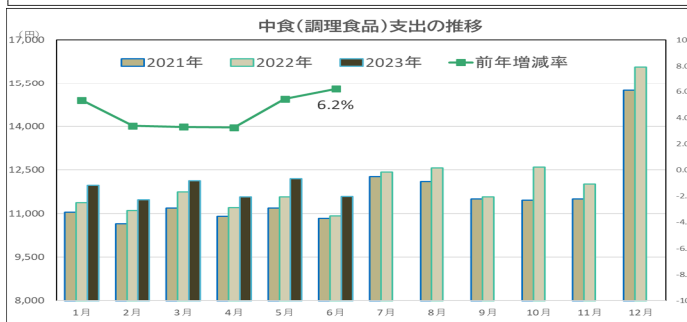
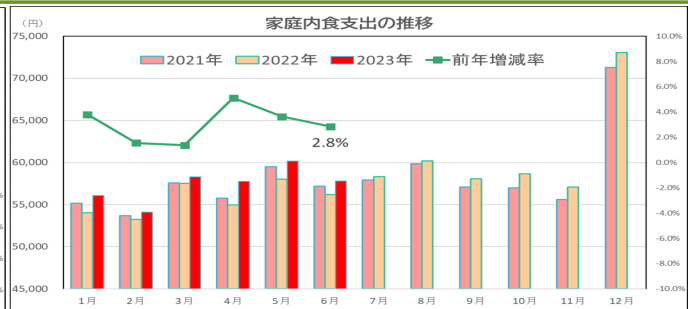
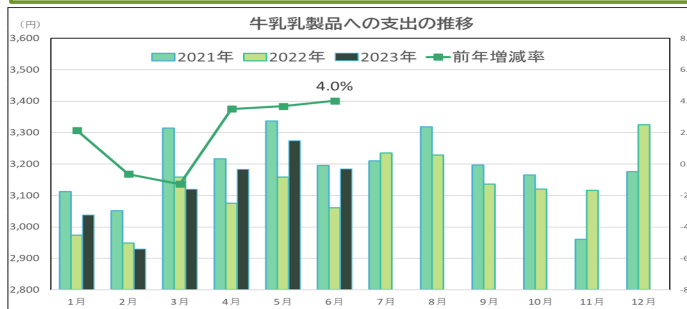
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



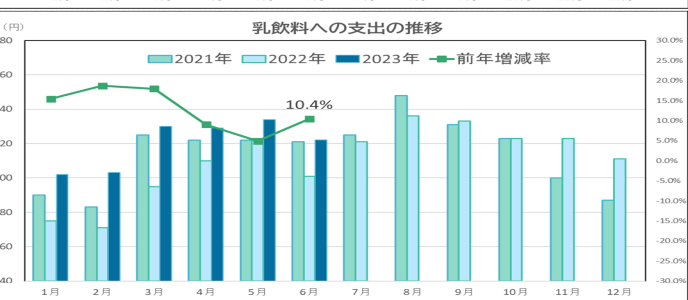
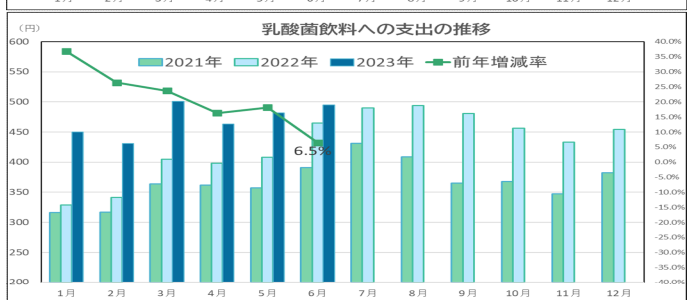
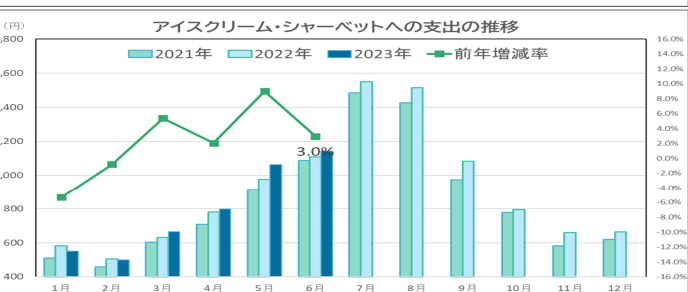
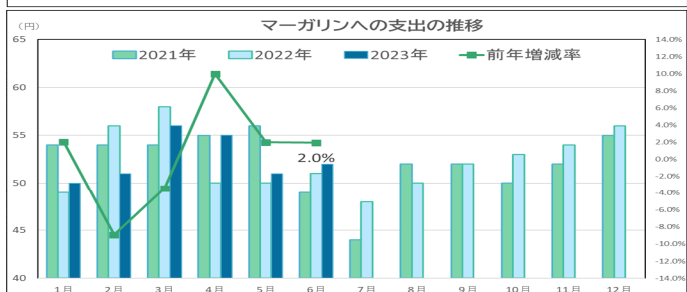
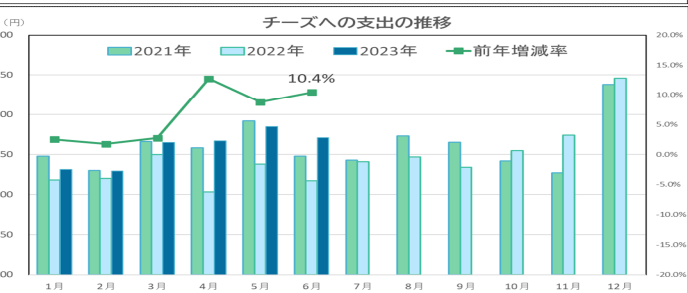
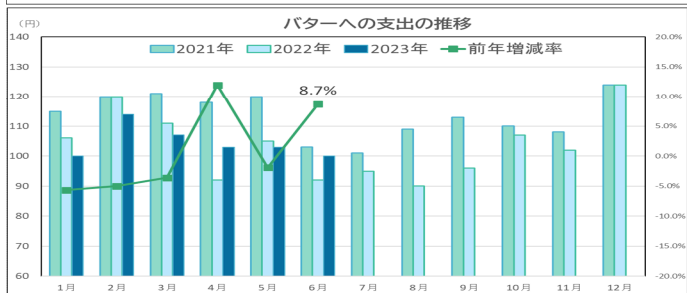
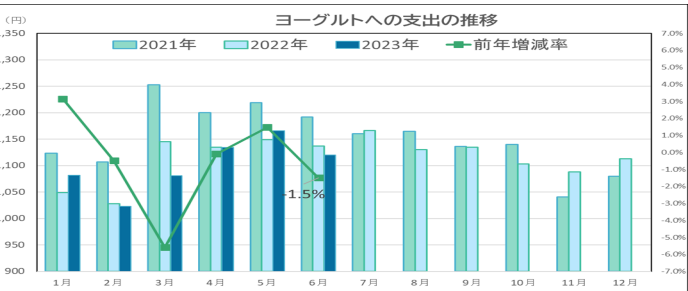
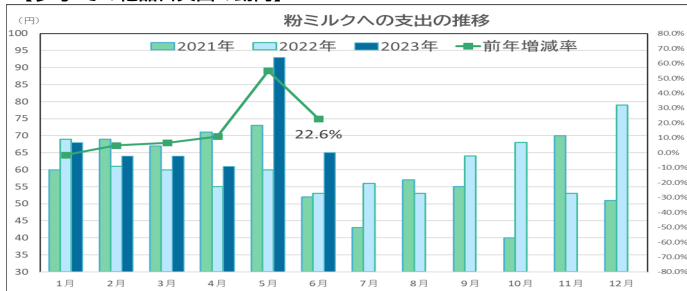
【家計支出の動向】

- (1)6月の支出額前年比について、外食108.8%、中食106.2%、内食102.8%と前年を上回り、食料全体への支出額は104.2%となった。
- (2)牛乳乳製品の支出額についても、前年を上回った。(牛乳乳製品全体前年比:104.0%、(うち牛乳104.9%、乳製品103.4%))
- (3)なお、6月の牛乳購入量は、100.7%(1世帯当たり5.83L)と10か月振りに前年を上回った。(※下記グラフに掲載無し)

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】

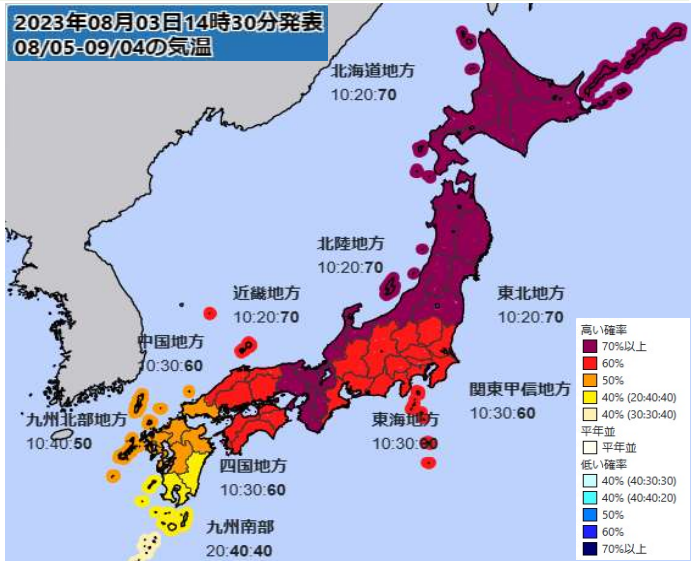
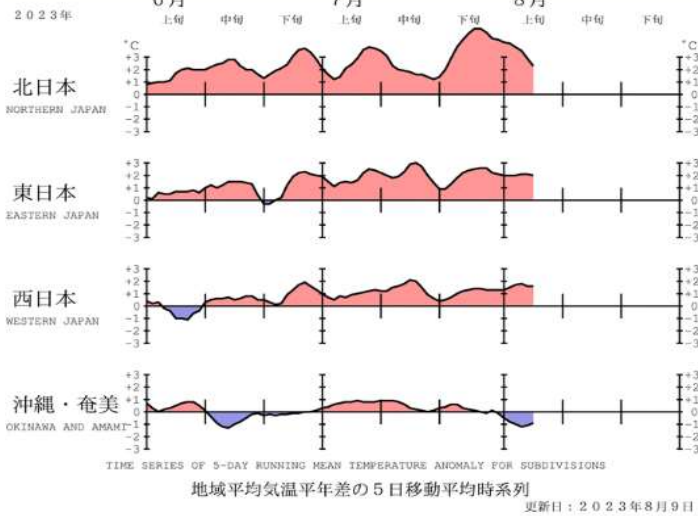


【気象庁HPより全国1ヶ月予報(8/5-9/4)抜粋】※8/3気象庁公表

北日本では、天気は数日の周期で変わります。東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は、北日本で高い確率70%、東・西日本で高い確率60%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。

※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



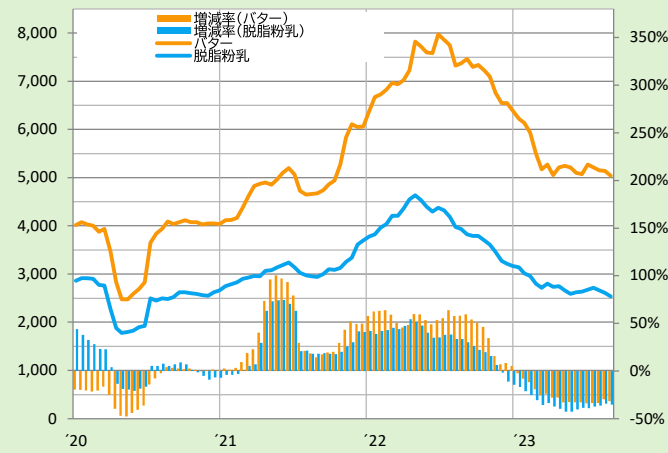
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(8月上旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,550ドル/トン、バター5,050ドル/トン中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,500ドル/トン、バター4,700ドル/トン、チェダーチーズは4,000ドル/トン中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$ / トン F.O.B. port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$ / トン F.O.B. port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)

